

KEK-SOKENDA I 研究会

記録管理とアーカイブズ

開催日：2009年1月22日(木) ~ 23日(金)

場 所：KEK国際交流センター 交流ラウンジ1

プログラム

22日 午後1時~3時15分 講演：(各45分)

時を貫く記録としての公文書の在り方

- 公文書管理法制に関する動向等 - 国立公文書館専門官 小原 由美子

記録を守り 記憶を伝える

- アーカイブズ学の世界 - 学習院大学教授 安藤 正人

大学におけるアーカイブズ

- 文書の移管・公開・評価選別 - 京都大学大学文書館准教授 西山 伸

午後3時30分~ 報告及び討論：(各30分)

総研大・事務文書のアーカイブズ	総研大	柳生 修二
総研大基盤機関におけるアーカイブズ	核融合研	松岡 啓介
EAD-情報検索システム構築	京大	五島 敏芳
核融合研におけるオーラルヒストリー	核融合研	木村 一枝
KEK-SOKENDA I 共同研究について	総研大	平田 光司

23日 午前10時~12時 国立公文書館つくば分館 見学

概要：21世紀に入り、各種教育・研究機関では機関記録を保存することの重要性の認識が進み、そのための史料室を設置するようになってきました。しかしながら、研究者・職員にはまだまだ史料保存の意味を理解できていないのが現状であると思われます。各機関の活動の中で、収集・選別された記録は、正しく維持・保管され、必要な時に必要な人が利用できなければその記録は史料として生きてこないし、それに携わった研究者・職員の活動も正しく評価されません。記録の重要性を再認識するとともに、収集・寄贈あるいは移管された記録をどのように管理し、また公開していくのか、その意味と具体的な実践方法について各機関で共通の理解を深めていく必要があるのではないのでしょうか。

この研究会では、国立公文書館の進めているパブリック・アーカイブズ ビジョンという考え方や最近の公文書管理法案の動向についての講演をはじめとし、「史料を扱う者はどのような視点をもって業務をこなしていくべきか」という視点に立った講演と各機関における現状報告を一日目にさせていただきます。

二日目には、KEKに隣接する国立公文書館つくば分館を訪問して、実際に移管された公文書の保存の仕方などを見学する予定です。

皆様の幅広いご参加をいただきたくよろしくお願いたします。

問合せ先・KEK史料室 TEL:864-5100 MAIL:sekimoto@post.kek.jp